

約5か月間、無人の部屋でお話していたんですが、やっぱり人の顔が見えるって、いいですねー。
といっても、半分見えないんですけど。

私、マスクして話をすると呼吸困難になるんです。2回ほどそうなって大変だという事で、つい先ほど、呼吸が苦しならないマスクを着けさせていただきました。これ、すごく高価な物です。
というか、ハンドメイドなので世界に1つしかないという物。
こういう親切を受けるので、コロナでは随分不自由するけれど、悪い事ばかりではないなという感じがしますね。

そしてもう1つ。先日息子から聞いたのですが、あるクリスチャンの女性が SNS に自分の身の上起こった事を投稿しました。

彼女はお母さんで、息子さんがいます。お母さんはクリスチャンですが、息子さんは聖書に全然関心がない。教会に誘っても行きたくない。神様について何の興味もない。聖書なんか関係ない。
勧めても勧めても、「それはお母さんの信仰やねんから、お母さん、やってたらええやん。私に押し付けるの、やめて！」断ってた。

こういう場合、もう打つ手がないかという、そんな事はない。祈りがあるんです。
「主よ、どうぞ、この子を導いてください。」YouTube を見ていたら、この集会のチャンネルを見つけた。
「これやったら、あの子も見るわ」という事でアドレス教えて「これ、見なさい。」
「だからー。見ないって言ってるでしょ。押し付けるのやめて。そんなん、関心ないから。」
絶対に見ない。逆効果。

ところが、そんな息子から連絡が入りました。今、大学は全部オンライン授業になっています。
オンライン授業で「今日の私の授業は、今から言う YouTube を見てもらいます。それを各自見てレポート提出を課題とし、それによって出席とみなします。」
どうなったかという、これはレポートなので、ノート取らないでただ聞くだけでは駄目なんです。
一生懸命聞いて・理解して・文字起こしをし・そして自分の考えを付け加えなければならない。
見たんですね。それで不思議な事が起こったという事で、息子がお母さんに連絡して来た。

この話を聞いた時、いいなあと思いました。

本人は見たくないと言っているのに、神は悩める母親の祈りを聞かれるんですね。
もしこの中に、息子さんの事・娘さんの事で悩んでいるお父さんやお母さんがおられるなら、皆さん、神様はあなたの気持ちがよく分かる。
神は悩む親の祈りを決してお見捨てになりません。
なぜなら神様ご自身が、思いのままにならない罪人を相手にしておられるからです。

聖書を見ると、神様は私たちをお造りになった第一原因者・作者なんですが、神は人間に自由意思をお与えになったんです。ロボットじゃない。意のままにコントロールする事は出来ないんですね。
意のままに出来ない自由意思を、悪い事に使うなら悲惨な事になる。
その悪い事ばかりに沈んで行く人間に、人類創生以来お付き合いしてくださっている神様は、愛する子供が危ないところに落ちて行くのをハラハラしている親の気持ちがよく分かる。

聖書に人を人と思わない裁判官の話が出て来ます。キリストが話をされました。

「俺は忙しいから、そんな細かい話なんか聞いてられるか！」というような、人権意識のない裁判官がおるんです。が、「それでも毎日毎日しつこく願っていたら、とうとう面倒くさくても、鬱陶しいので聞いてくれるだろ？ましてや、あなたの事を本当に心から愛しておられる神が、その祈りを無視される事があるだろうか。」

そのクリスチャンのお母さんの祈りが聞かれているという事で SNS で挙げているので、多分彼が見つけていたら「俺の事や！」となると思うんですよ…。あなたの事です！是非、集会に行ってくださいたらいいなあと思います。

今日はもう 1 人、神の御言葉によって鼓舞され、勇気づけられて困難に立ち向かった方を、最初に少し触れたいと思います。

3 日前の 7 月 30 日、台湾の李登輝（りとうき/1923-2020）元総統が亡くなりましたね。台湾民主化の父と言われています。

どこでも、独裁政権から民主化の時には血が流れます。

1989 年ベルリンの壁が崩壊して行った時、ヨーロッパでどれほどたくさんの血が流れたか。ルーマニアのチャウシェスクなんて、夫婦で銃殺ですから。

だけど、李登輝さんは一滴の血も流さずに民主化革命を成し遂げた。

これは、中華文明圏の国々の中で初めてです。中国も香港もシンガポールもやった事がない。中華人類文明の中で初めて、李登輝という人が民主化革命を成し遂げたんです。

台湾は日本だった時代がありますよね。

昔、日清戦争があって、日本が清国に勝ちました。世界中、あっとビックリですよ。その時日本は色々要求するけど、負けた方の清は呑める要求と呑めない要求がある。呑める要求の筆頭は何か？台湾の割譲だったんです。「戦争負けたんやから、ここ日本に渡せ。」「ああ。ええよ。」

なぜかというと、台湾は“化外（けがい）の地”と言われていたんです。

中国の文化の外にある野蛮な地域・未開の場所・何の価値もない・失っても全然惜しくない。それが台湾。だから「台湾欲しい。」「どうぞー。」

日本は台湾に対して、持てる資力を注入しました。下水道を完備し・ダムを造り・台北帝国大学を造り・教育に注力し、見る見るうちに、マラリアだらけの国から、文明水準の高い非常に過ごし易い所へ変わって行ったんです。

日本が一番元気だった頃、台湾を 50 年間支配するんですが、その時に生まれ育ったのが李登輝さんです。だから日本がめちゃくちゃ好き。「私は 22 歳まで日本人だった」と言っている。戦争終わるまで日本人。彼は夫婦喧嘩する時、日本語だそうです。難しい事を考えるのも日本語で考えた方がいいって。

日本大好き大好き大好き過ぎて、台湾人が時々困惑するんですね。

「尖閣は日本のものだからね」と言うんですよ。

これ、台湾の元総統が言って、どうなるのかなと思うのですが、歴史的には正しいと思います。

いずれにしろ、お父さんは警察官で、まあまあ裕福な家庭ではありました。
高校を出て、京都大学の農学部、農業経済学を学ぶために内地に来ます。
なぜ農業経済学かというと、高校の時、歴史の先生がマルクス主義者だったんです。無神論。
この不公平な・不平等な世界を革命で変えろ！みたいな。
なので、農業のやり方ではなく農業経済。革命の1つの契機に出来るかもしれないと。
マルクス資本主義をもう読んで読みまくって。総統になってからも、マルクス主義の授業できるって。
本当に丹念によく読んだそうです。

しかし、京都大学に入った時に戦争が始まりました。その時、彼は優等生の日本人です。
初め、大学生は兵隊に取られなくても良かった。
やがて学徒動員で取られて行くのですが、李登輝さんは学徒動員がかかる前に、「愛する日本のために」
と志願して陸軍に入るんですよ。少尉として勤務されたんですが、日本は戦争に負けました。
1945年（昭和20年）8月15日玉音（ぎょくおん）放送。その前日にポツダム宣言受諾。

戦争が終わると同時に、彼は日本人ではなくなった。
そして台湾に戻るのですが、台湾は誰のものになったか？
清国はもう滅んでありません。清国を滅ぼした中華民国・国民党の支配下に入っている。
日本人がいなくなった後、大陸から中国国民党が入って来るのですが、これが酷かった。

国民党の蒋介石（しょう かいせき/1887-1975）、日本人は良いイメージを持っている人が多いんじゃないですか？捕虜をみんな帰してくれたから。いやー！悪いで！
今日はその話、あまりするつもりはないんですけど。

一級市民と二級市民…。台湾に元々住んでいる台湾人を本省人（ほんしょうじん）、中国大陸から入って来た人たちを外省人（がいしょうじん）と言います。
外省人は1割くらいですが、その人たちが二級市民の本省人を虐げる。いじめられていじめられて。

戦争が終わって2年くらいの時、1人のシングルマザーが、子供4人くらいおったのかな、煙草の密売をやってしまったんです。当時、煙草は国民党の専売だったので、密売だ！とすぐに警官が取り囲んで。土下座して謝るけど、見せしめで銃の台座でポコポコにした。もう立てない。
そして、彼女が持っていた全ての商品とお金を全部奪い取った。

そのやり方があまりにも酷いのと、それまでの国民党のやり方が酷すぎるという事で、自然発生的にデモが起こったのですが、デモ鎮圧のために威嚇射撃をしたはずの弾が命中して台湾人が死にました。
撃った者は名乗り出ずに行方不明。どんな罪も国民党なら不問に付される。

それで怒りが爆発して、大勢の人たちが本庁を取り囲んだ時、「分かった。これからはもう乱暴な事はしない」と一旦抑えながら、実は本国に打電していたんです。「軍隊送ってください。」
そして、中国本土から国民党の精鋭軍を送ってもらって3万人殺した。戦車で踏み潰したんです。
つまり、天安門事件が起こる40年以上前に、国民党は台湾で天安門事件以上の事をやった。

帰って来た李登輝さんがそれを見て「なんだ、これは！」。それで、彼は共産党に入るんですよ。無神論。
なぜ共産党か？国民党は共産党が憎くて憎くて仕方がないので、共産党に入る事によって復讐できるんじゃないか。それは一時的な事で、すぐに出るのですが。

そういう事で、彼は本省人なので、政治的な事について発言したり活動したりしてもマークされるだけ。「これからはアカデミックの世界で生きて行こう。学問一筋で頑張っ生きて行こう。」
農家の人たちを少しでも楽にするためにどうしたらいいのか、次々に斬新な事をします。
そして、アメリカの大学院に行って、そこで出した論文が全米で最も権威ある賞を受賞しました。

受賞したのを見た時、蒋介石の息子で2代目の独裁者の蔣経国（しょう けいこく/1910-1988）が「台湾にこんな人材がおったんか！」と白羽の矢を立て、「是非、政府で働いてもらいたい。」
そして、次から次に難問を任せると全部上手く行く。ヨセフみたい。やる事なす事、上手く行く。
最終的には「台北の市長になってください。」なるんです。
台湾には選挙がありません。市長も総統も選挙じゃない。国会議員も。国民党一党独裁。

1947年に3万人殺したって言いましたね。これは1947年2月28日に起こったので、228（にーにーはち）事件と言います。この時、戒厳令が敷かれましたが、戒厳令は40年続きました。
その40年間で、政府軍に殺された台湾人は10万人です…。

そういう中で、「政治に関わるのはもう真っ平だ」と思ってたんですが、頼まれた仕事をやって行くにしたがってメキメキと頭角を現し、最終的に1984年くらいですか、その時は蔣経国は病気が重くて寝たり起きたりだったんですが、「これからの台湾を任せられるのはあなたしかないから、副総統になってください」と頼まれるんです。
「私には荷が重すぎるから結構です」と断るけど「いや、君にやってもらおうと決めてあるから」と、死期の近い人がにじり寄って頼むので「はい」と言ってしまう。だけど困った…！

彼はその前に、30代半ばでクリスチャンになっていたんです。初めは共産主義の人でした。
それが、奥様がとっても尊敬し、愛し憧れていたお母さんが亡くなった時、彼女がグーンと落ち込んでしまっ立ち直る事が出来ない。どんな言葉を掛けても、どんなに慰めても、寄り添っても駄目。
このまま人間としてダメになってしまうんじゃないかと、深一く沈んで行くのですが、ある時から彼女が教会に通い始め、聖書に向き合い、聖書を読み始めるんですね。
そして、神の言葉を神の言葉として聞くようになると、少しづつ回復し始めたんです。

神の言葉を神の言葉として聴くというのは、例えば「わたしはあなたとともにいる」と言われたら、「証拠は？」「ホンマか？」とか言わないで、「そうなんだ。神は共におられるんだ」と受け止めるんです。
「神は試練とともに脱出の道を備えている。人が耐えることの出来ないような試練に遭わせない」と書いてあるのを見たら、「そうなんだ。」
神が「わたしがあなたを支える。あなたを背負う。」「わたしのくびきは負いやすいから、わたしとともに歩みなさい。わたしの荷は軽いです」と言ったら「ああ、そうか。キリストと共に生きるなら、人生の重荷をキリストが負ってくださるのか」と、そのまま信じる。

夫としていい言葉をいくら投げかけても何にも良くならなかったのに、神の言葉を神の言葉として聴く事によって、彼女がメキメキと回復して行ったのを見た時、自分も神の言葉を信じ、従って行きたいと思うけれど、いかんせんサイエンティスト。見えないものをどうやって信じるん？

台北にはキリスト教会がたくさんあるそうですが、片端から色んな教会を訪問して、自分を納得させてくれるような話し手がいる所を捜しまくったそうです。
ある時、そういう人が出て来たんですね。彼は科学的な説明は一切しなかったそうです。

「あなたね、五感に感じないもの、目で見ることができないものは信じられないと言うけど、それ、おかしくない？」一遍、若き日の李登輝さんに言ってみたいな、私、クリスチャンで「おかしくないか？」と。

「見えたら、信じるも信じないもないでしょ。見えないから信じるんでしょ。

あなたが結婚する時、20年後の妻がどうなっているか、あなたに見えますか？今は可憐な人でも、20年後〇〇かもしれないじゃない。でも、未来が見えないからって何もしなかったら、その人の20年後がどうなるか？という事も見る事ができない。

信頼してみないと見えて来ない世界というのがあるでしょう。

特に人格と人格の関係においては、信頼関係において、初めて相手が見えて来るのではありませんか？創造主なる神は人格ある神で、そして神は、決して失望させて終わるような方ではない。」

で、信じるんですね。信じて歩み出したら色んな事が見えて来て、嬉しくなって、ある時夢を見るんです。夢の中で、神のお告げを聞いたと言うんですよ。

台湾の山に高砂（たかさご）族、いわゆる原住民と言われる人たちが住んでいます。

中国の言葉では“原住民”は悪い意味ではありません。

中国から色んな人たちが渡って来るはるか前から、フィリピンや色んな島々から台湾に流れ着いた人たちが山の中に住んでいる。その人たちにイエス・キリストの福音を伝えたい。

60歳になったら全ての仕事をやめて、台湾山地の奥地に行く宣教師になろう！と決めていたんです。

「副総統になって」と言われた時、61歳やったんですよ。1年オーバーしてるし…。

総統の言葉は聞いてあげたい。けども、神の言葉を退ける事はできない。総統と創造主との板挟み。「どうしたらええ？」

悩みに悩んでいた時、ある牧師が長い手紙を書いて来てくれて、「今は政治に行き。」

「宣教師というのは、なりたいたいと思う人がなるのではなくて、召された人だけがなる事ができる。

あなたが宣教師に向いているかどうかは分からないけど、あなたが政治の仕事に向いている事だけはハッキリしている。あまりにも貧しかったら生活に追われて、聖書の話聞くところではないという事もあるじゃないか。だから、まず政治の仕事をしてみるというのが、私には神様の召しに見えるのだけど。」それを聞いて「分かりました。」

牧師は後でやったらいいからという事で、とうとうその日は来なかったんですけど。

彼はその時に政治の道で行こうと、1988年に蔣経国が亡くなると総統になり、遂に1996年に民主選挙に踏み切って行ったんですね。

民主選挙の前に、実は司馬遼太郎（1923-1996/T12-H8）と『週刊朝日』という雑誌で対談してるんです。その中に『台湾紀行』という連載があって。

李登輝さんは司馬遼太郎さんの本を非常に愛読していました。彼の家には図書室があって、岩波新書の全巻が揃ってるんですよ。全巻。岩波の活字って、なんか読みにくくない？無類の読書家です。

対談のテーマは「台湾人に生まれた悲哀」。その時の李登輝さん、めちゃくちゃ雄弁。

「台湾には400年の歴史があるが、いつも外来政府によって支配される。日本も50年間支配した。

その前は清。今は国民党が支配している。だけど台湾人にも、支配されずに、自分の事は自分で決めて行きたいという欲求があると思う。私は聖書の中で一番好きなのが**出エジプト記**なんです。」

出エジプト記は旧約聖書の中の書物で、長い間エジプトで奴隷状態だったユダヤ人を、モーセが率いてエジプトから脱出させ、約束の国に向かって進んで行くという、実際に起こった歴史の本です。

この対談の中で、李登輝さんはハッキリと「私はモーセだと思う」と言うんですよ。

「神が人間に願っているのは、奴隷状態に甘んじる事ではないと思う。

なぜなら、神は自由意思をお与えになったから。自由意思が発揮できない状態、奴隷の状態よりも、解放されるというのが神様の御心だと思う。

そして、神の御心を行う事は神が喜んでくださる事だと思うし、あの時モーセに力を与えたように、力を与えてくださると思う。我々は大きなパロのような国を目の前にしているけれど、台湾国民を連れ出して自由な所に行くべく、私をお立てになったのではないか。」

これ、実は、この対談内容を中国語に翻訳して、無断で中国本土でバーッと撒いた人がいるんです。

それを共産党の幹部が見て「こいつ、こんな事を考えてたのか！」

だから、それから李登輝さんに対するプレッシャーや妨害、色んな事があって、選挙の前には台湾の目の前、鼻先で中国海軍が軍事演習やって、「もし民主化やったら、どんな目に遭うか分かってるだろうな！」その時アメリカが空母を出した。2隻。1隻の名前が「インディペンデント/独立」。効いたな、これは。

そこに行くまで天才的手法でやって行くのですが、結局、聖書に出て来る歴史を自分の物語に載っているんです。

「大昔にあった自分と無関係の民族の物語」ではなく、聖書に記録されている、神が人生に・歴史に介入して行われた事が今の時代でも有効で、私は小さな者だけど、この創造主によって使っていただく事ができるかもしれない。神は私は本省人なのに国民党の総統にする事で、そのチャンスを下さった。」

その時「神の言葉を神の言葉として聴くって、こういう事なのか。」これがズシンと入って来たんですね。確信が与えられ、自分の力でやるというよりも、神の力と人の力が協力し合って神の理想に進めて行く、神の理想をつくって行くために自分の人生を使っていただくという、こういう躍動というか、この話をしたら止まらないそうです。

小池百合子 東京都知事も、最後に会った時の話は出エジプト記だったそうです。

「私が一番関心があるのは、出エジプト記と人工知能です。」全然関係ないねんけど。新しもん好きや。

今日の後半は、名も無い1人の母親にも、共産中国を相手に一步も引かない政治家の上にも、誰にも等しく力を与える事ができる神様の言葉の中から福音を考えたいと思います。

ヘブル 2:14-15

14a. そういうわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。

イエスは神が人として来られた救い主です。イエスは神なのに、人としてこの世界に来てくださった。

なら、どんなスーパーマンとして来たんだろうか？スーパーマンじゃないんですね。

子たち（人間）がみな血と肉を持っているように、イエスは普通の人のように肉体を持って、この世界に来ました。食べなければ飢えるし、飲まなければ渴くし、切れば血が出るし、弱さを持ち、疲れも感じる。そういう体、人間の姿を取って来てくださった。

それはひと目で「あ、人となった神だ！」と分かるような一目瞭然の、なんか光り輝いているようなので

はなく、ごく普通の人。見とれるような姿もなく、普通の人として来られました。
しかし、普通の人のようにして肉体を持って来てくださったため、その肉体を通してしてくださった働きのゆえに、人間に3つの素晴らしい祝福を残してくださったと説明しているんです。

1) 14b. それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、
悪魔は靈的存在で、目に見えないけど実際にいます。
ギリシア語で悪魔は“ディアボロス”。直訳は“中傷する・悪口言いふらす”。
中傷する者、それが悪魔。そういう靈的存在がある。

では一体、何を中傷するのか？2つ。

①神に対して人を中傷する。

神よ。確かにあなたは人間をお造りになって、愛しておられるかもしれませんが、このコイツと来た日には、なんと妬み深く・不正直で・不道德で・決めた事を守らず・悪い習慣をやめる事も出来ず・いい加減な・嘘ばかりついて・同じような罪を繰り返し繰り返し起こして。何ですか?!
あなたは正義の神ですから、まさかこの人間を、愛しているという理由で赦されるはずはありませんよね。だって、あなたは正義の神なんですから。

②人に対して神を中傷する。

神が愛なら、なんでこんな酷い事が起こるんだ?!
神様が優しいなら、なんで人生にこんな事が起こるんだ?!
神は優しくなんか無い。神はあなたなんか愛してない。神はあなたに苛立っている。怒っている。

昔お話した事があるんですが、あるご夫婦が田んぼの畦道を歩いていました。
ご主人が先頭。その後ろに奥さん。青々と茂っている真っすぐの畦道。きれいな田んぼ。
僕も先日新潟に行きましたが、空から見たら田んぼだらけ。ほんまに田んぼだらけでした。
で、そこをずっと歩いていると足が重くなって来る。
というのは、泥が靴に団子みたいにくっついてぐっちゃぐちゃ。「こんな、来んといったら良かったわ！」
ヤレヤレ、やっと渡り切ったと思ったら、奥さんが「あなた、緑って綺麗ね。自然っていいよねえ。田んぼを渡る風、気持ちいいね。」それを聞いて息を呑んだ。

同じものを見てるんです。同じ所を通ってるんです。だけにご主人は、泥だらけ・ぬかるみ・靴汚れた、という事にフォーカスするので、「田んぼというのは疲れさせて汚い場所や。」
でも、稲の緑・太陽の美しさ・空の青さ・風の清々しさ、そこに注目していた奥さんは「なんと素敵な時間だったことでしょう。」
同じ事を経験しても、ひがんで見るか、良いものにフォーカスするかによって、人生の見え方は随分変わって来ると思うんですね。

世界で色んな残念な事が起こり得ますが、この世界で起こっている事は神のご性質を反映していません。
また、人生に起こる出来事は神のご性質を反映してないんです。
神から離れた人間の歴史や世界や世の中なので、神が意図していない・望んでいない事も横行しているんですね。それは神の御心じゃないです。しかし酷い事の中にも、神様は良くなるように良くなるようにと、いつも働きかけてくださっている方です。

ご自分の死によって滅ぼし、の滅ぼすは“消滅する”意味ではなく、“無効にする・効力をなくす”。

昔 D.L. ムーディ (1837-1899) がこんな話をしました。

刑務所を出所して就職の当てがない青年がいたのですが、なんとか拾ってくれる人がいて、こんな自分を認めてチャンスくれたという事で一生懸命働いていました。洋服のお店で。

ところが1年ほど働いていると、刑務所で仲間だった人が出て来て、町でバッタリ会ったんです。

「お前、こんな店で働いてたんか！すごいチャンスものにしたな。ところで明日の定休日、物盗りに入るから鍵開けとけ。もし断るなら、お前の過去をオーナーに言うぞ。どんなところを通って来たのかバレたらすぐクビだから、クビになりたくなかったら鍵開けとけよ。」

しかし、彼は全く動じることなく「言いたければ言いなさい。主人は私の過去を全部知った上で採用してくれている。私は主人に隠し立てしている事は1つも無い。主人は私のありのままを受け入れて、赦して採用してくれた。だから、言いたければ言え。」

主人が得心する赦しがあるという世界では、この悪い人物の攻撃は無効ですよ。

同じように、悪魔が神に「コイツはこんなに人を裏切りました！こんなに人を傷つけました！こういう場面で、こんな嘘をつきました。こういう場面で、こんなにダメな事をやりました！」と言っても、神は全部ご存知で、その罪をイエスの死によって贖ってくださったのです。

私たちの罪を全部イエス・キリストの上に背負わせて、私が償わなければならなかった罪の償いを、イエス・キリストによって完全に赦してくださったんですね。

だから、もし悪魔が「コイツはこんな罪を犯してました！」と言っても、「知ってるよ。でも、その償いはもう終わっている。お前が持ち出したその訴えは無効！」

これが、**悪魔をご自分の死によって滅ぼし、無効にしている**という事です。

あなたに最高の弁護士が付いている。それはイエス・キリストなのだという事です。

2) 15. 死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした。

このために、キリストは1度、この世界に来てくださったんですね。

ところで、**死の恐怖によって一生涯、恐怖の奴隷としてつながれている**…。

“死”と聞くと「もう眠れない。恐ろしい。怖い。ずっと苦しくなる」という方もいますが、案外、日頃は考えないようにしている、忘れていているという方が多いんじゃないでしょうか？

しかし、この忘れていているという事を、恐怖に感じるようになった少年の話があるんです。

昨年12月12日に、インターネットで『100日後に死ぬワニ』という四コマ漫画が連載されました。毎日毎日一日一話。四コマ漫画は起承転結。この四コマ漫画がすごいのは、起起起起で終わりやねん。物語の展開は一切ない。

雄のワニがカフェでバイトしていて、そこの先輩に恋心を持ってます。おしまい。

このワニにはネズミの友達がおって、その友達と時々ラーメン食べに行くんです。おしまい。

田舎のお母さんが時々電話して来て「あんた、元気か？」「うん。元気でやってるよ。じゃあね。」おしまい。ある時には電車でお年寄りに席を代わり、ある時にはテレビを見、ある時にはゲームをやり、ある時には何もせずぼーっとして、終わり。四コマとも、ぼーっとしてんねん。

だけどね、四コマ目の欄外に「死ぬまであと〇〇日」と書いてあるんです。

私が一番ウツときたのは、ある時テレビショッピングで、熟睡できるソファベッドの通販をやってる。

これで寝たら熟睡できると宣伝してて、「俺、熟睡したいわ。ワニやし。」ワニ関係ないけど。すぐにテレフォンショッピングで電話するけど、「あまりにも人気商品で在庫がなく、生産が追い付かないので、今注文なさっても到着は1年後です。」その時ワニは「1年なんてあっという間だから注文します！」楽しみだなあ、1年後！読者はワニが1年後いないという事を知っているわけです。しかしワニは、受け取る事ができない物を楽しみにしながらニコニコ笑っている。

こんな話が99回続くんです。そして、いよいよ最終回の時、フォロワー200万人ですよ。200万人が「どうなる？」「どうなる？」「どうなんねん?!」99日目、「明日、花見行こうよ！」「花見しよう！」そして100日目。友達が集まって花見で宴会してるけど、ワニだけ来ない…。おしまい。

ワニが、自分があと何日で亡くなるという事を知らずに、死の恐怖を、奴隷というよりも毎日毎日健やかに生きているんですね。恐怖に固まっているのではない。毎日毎日、色んな出会いがあって、ささやかな幸せがあって、日常生活を楽しんで、それで突然亡くなったかのように見えるけど、読者はあと〇〇日というのが分かっている。それを見た時「なんてかわいそう！」「なんて不憫な！」と思うけど、皆さん、かわいそうに思っている一人ひとりに自分の順番が来るんです。

なぜ死があるのか、人間に死が入っている理由をはっきり語っているのは、色んな書物が世界中にあります。聖書だけです。罪の結果、人は死ぬものとなりました。命のルーツである神様から離れた結果、人は死ぬものとなった。「死の恐怖を感じないという事に恐怖を感じるようになった。寝られなくなった」という小学生の書き込みがたくさん出て来たんですね。

しかし、こう書いています。一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした。キリストが肉体を持ってこの世界に来てくださった。この方は私たちの罪を背負って、十字架の上で身代わりで死んでくださった。死んだだけでなく、墓に葬られて3日目に復活された。死を突き破ってよみがえってくださった。死を死なせた。

信仰によってイエス・キリストと繋がった人には、イエスの身の上で起こった事がその人にも起こります。それは携挙。やがてキリストが空中まで迎えに来た時、信仰によってキリストと結ばれている人たちは皆死なない体となって、天に引っ張り上げられるんです。これを携挙と言います。

大きな石をのけるために、一旦石の下にもぐり込んで、下からグーッと押すというやり方もあるでしょう。人類の上に覆いかぶさっている大きな岩のような死の下にもぐり込んで、自ら1度死ぬ事によって、死からよみがえられたのです。

なぜ死ぬ必要があるんですか？死なない人はよみがえる事ができないからです。死んだ人だけがよみがえる事ができるんです。生きている状態で、これ以上よみがえる事はできないんですね。死を滅ぼしてくださったイエス・キリストと繋がるならば、その人は死んでも復活するという望みが与えられるので、解放されたという事が実現するのです。

ヘブル 2:17-18

17. したがって、神に関わる事柄について、あわれみ深い、忠実な大祭司となるために、イエスはすべての面で兄弟たちと同じようにならなければなりません。それで民の罪の宥めがなされたのです。大祭司は私たちが神様に執り成す仲介者です。

18. イエスは、自ら試みを受けて苦しまれたからこそ、試みられている者たちを助けることができるのです。

十字架にかかって死んで葬られ、3 日目によみがえった方は、オリーブ山から天に帰って行かれました。今、天で何をしておられるのか？天で私たちをご覧になり、試みられている者たちを助けるために、あなたのために、特別に祈っておられるのです。

生きてると、本当に色々な事に試みられますよね。望んでなくても。

次から次へと試練がやって来るといふ事があるかもしれません。

しかしイエス・キリストは、私たちが助けるために天で祈っておられる。あなたを応援しておられる。

あなたに力を注ぎたいと思って、あなたに注目して祈っておられるのです。

2017 年、女性の衆議院議員が突然自民党を離党して、政治家をやめて、再度挑戦したけど落選したというのを覚えておられますか？豊田真由子さん。「この、はげ〜！」という。

「違うだろ！ちがうだろ〜！」これ、2017 年の流行語大賞の候補に挙がってました。

その秘書が、なんかボッコボッコってやられているような。

文春砲でやられたんですよ。ボイスレコーダーにその内容を全部録音して、それがお茶の間でワイドショーなんかで何回も「違うだろ〜！」

あの方はすごい経歴。東大法学部を出て、キャリア組として順調に歩んでいたのですが、これで全国民から総スカンを食らって、3 年間全く音沙汰がなかった。ところが、この間テレビに出てたんです。えーっ！

実は、彼女は厚生労働省のキャリア組だった時、ハーバード大学大学院に、公衆衛生学のために派遣されて留学してるんです。つまり、伝染病のプロフェッショナル。

新型インフルエンザの時も、伝染病に明るい外交官という事で、世界中を飛び回って、現場の第一線で指導した人です。このジャンルについて言うならば、非常に知識に明るい聡明な人物なのです。

だけど、この3 年間どうしていたのか？それがもう、朝昼晩ずーっと、あの映像・あの音声が流されて、精神バランスを完全に崩し、結局精神病院に入って、12 キロ痩せて、毎日死にたい死にたいって。

あまりにも深く沈み込んで、その時の記憶が、何を喋ったのかとか殆ど分からない。

そして、政治家にはもう二度としないと決めて、主婦として子育てに専念しているのですが、「出てください」とオファーがあった時…、なんで頼んだかという、公衆衛生の専門家だからというよりも、やっぱり見世物じゃないかな。専門家、現役でいくらでもいるじゃないですか。

「いや、そういう人たちは忙しいから。」そうですかね？

彼女はオファーが来た時、この人の顔なんか見たくもないという人がたくさんいるに違いない、にも拘らず、受けるんですね。その理由、それは「期待と応援だ」と言っていました。

1 つは大恩人がおられた。あの失敗の後、支持者が皆離れて、関わっていた事が恥だという観点で全く他人を装ってしまった。だけどこの方は、どん底の時でも、絶好調の時と全く変わりなく応援して、「大きな失敗をしたけど立ち直れる。やり直せる。やり直せない人生なんかないから。あなたにはそれだけの才能があるから。私は信じている。できるから。」

最後まで諦めずに励まし続けてくれたその方が亡くなったんです。亡くなった時、お葬式に行こうにも、ずっと週刊誌がストーカーしているので「あそこにいる！」と大騒ぎになると、ご遺族に迷惑になる。だから、お通夜の前にひっそり行って、ちょこちょこと挨拶してサーっと帰って。その時、「大恩人の葬儀に人目をはばからなければ出る事ができないこの人生、そんな生き方を大恩人は望んでいただろうか？そんな生き方を、これからずっと続けていくのは良い事なんだろうか？良くない。」

もう1つは子供たちなんですね。幼い子が2人いるのですが、入院中でも、世間ではどんなに悪女呼ばわりされても、その子たちにはママなんです。どんなに酷い扱いを受けていても、この子たちには最高の女性。最高のママ。

ずっと死にたい死にたいと思っていて、なぜ死ななかったのか？もし死んだら、この子たちは「自分たちの存在は、お母さんには、生存に引き留めるほどの価値がなかったんだ」と思うかもしれない。ここから逃げたら、残された子供たちはどう思うだろう？「自分たちの存在は、お母さんの自殺願望にブレーキをかけるほどには特別な存在ではなかった」と思って、その重荷を背負わせて生かして行くというのはいかない。私は、私だけの私ではない。それで、もう辛うじて踏ん張って、恐ろしい選択をする事を思い留まった、と言っておられました。

何が人を正気に保たせたのか？何が人に最後の踏ん張りを与えたのか？それは“応援”。愛してくれる。支持してくれている。期待してくれている。「自分には見えなくても、自分の未来を明るい目で見てくれている」という眼差しを知った事が大きかったと思うんですね。

イエス・キリストは自ら試みを経験しておられるので、試みの渦中にある一人ひとりの事がよく分かります。そして、ただ「我慢なさい・こらえなさい」だけでなく、ただ応援するだけでなく、力を与える事ができる方です。イエス・キリストを信頼して進み出してみた時、思っても見なかった助けを経験して、「ああ。神は生きておられる。私を伴って歩んでくださる方だ」という事を経験する人はたくさんいます。この集会のクリスチャンたちも皆そうなんですね。

ですから、心からお勧めしたいのです。イエス・キリストはあなたのために、救い主としてこの世界に来てくださいました。この方が血と肉を持ち、肉体をお持ちになったのは、あなたの救い主となるためです。あなたのために死んで、葬られて、3日目によみがえり、間もなく来てくださるキリストを、どうぞ信じてください。

「信じる信仰を与えてください。悔い改める心を与えてください」と祈ってみてはいかがでしょうか。皆様が是非キリストと出会ってくださる事をお勧めして終えたいと思います。

~~~~~  
\*動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」検索。

\*ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約14分)も是非どうぞ。YouTube もあります。

\*YouTube「[ごうちゃんねる](#)」(約10分)も是非見てください。

動画筆記 : Rumi